**各支部の会員の皆さんへ**

**福岡県退職公務員連盟会長　稲田瑞穂**

**日公連から、会員拡大についての文書が届きました。**

**１．今までの勧誘の仕方は、毎年同じことを踏襲しているだけではないのか？**

**２．会員自身が、日公連・退公連の認識をどうとらえているのか？**

**根本的に、会員ひとり一人が意識改革をする必要性を訴えています。福岡県退職公務員連盟も、今までのことの踏襲だけでなく、今年1年を変革元年にする必要があります。そために、何を大事にして何を変えたらいいのか真剣に取り組む必要があります。**

**今から、24年前の中教審答申の中で、「不易と流行」という言葉がキーワードとして語られたことを多くの会員の方が知っていると思います。**

**まさに、70年という歴史の中で成果も多くあげてきました。しかし、長い年月の中で情勢が大きく変わりました。超高齢化・少子化社会の中で、現代的課題を克服するために、会員一人ひとりが知恵を絞り取りくまなければならない正念場ではあります。日公連から下記の事項を念頭に組織強化の活動を行うよう要請文書がありました。それをもとに、県連事務局と各支部で新たな取り組みをするための熱い論議を交わそうではありませんか。**

記

1. **歴史と実績から、退公連は人の退職後の充実した生き方や社会保障制度の持続性に関して、今後も日本の国に欠くことのできない組織であること**
2. **組織の対外的な力、影響力は「組織の構成員の数」と組織への信頼度によること**
3. **組織への信頼度は、組織の活動が人のため、心豊かな社会の進展を志向しているか否かによること**
4. **退公連会員の方々には、長年培われた質の高い、多彩な経験と知識と****ネットワークがあること**
5. **上記の資産（経験と知識とネットワーク）を意識することは、 会員の方々の誇りと自信の基になり、 活動への意欲を高めること**
6. **日公連、 退公連は、 後世の人々の納得の人生を支援する組織を目指していること**

**○人々の生きがいと健康の増進を願い、 会員の方々が幸せな人生を構築される活動を選択肢として示すこと**

**○次世代の人々が評価する内容で年金制度等を引き継ぐこと**

**会員であることが誇りであり、ステータスとなる組織に**

**－組織の再生に本腰を入れよう－**

**退公連・日公連は社会的課題に関心を持ち、 その解決に向けて努力する団体に移行する時期に来ています。各退公連は我が国の恩給 ・ 年金制度の構築に数々の実績を挙げてきた歴史を持っています。その先人の努力と実績が現在の退職者の生活を 支えています。2万円、5万円年金に歓喜したのはそんなに遠い昔のことではありません。**

**これからの 日公連の課題は、この制度を「なるほど」と評価される形にして次世代に引き継ぐことであり、もう一つは失われつつあるコミュニティー、地域社会の活性化を目指して活動することです。**

**実は、退公連の中には多彩な知見が陽の目を見ないで眠ってます。会員の方々は、 ご自分では気づかれない経験と知恵という大量の資産を持っておられる。※(文末の注)これらを眠りから覚まし、 活用すれば、地域の人々や広く国民の信頼を得る団体に変貌し、会員であることが誇りであり、一つのステータスとなる団体に成長するには、さほど困難はないと思われます。組織の拡充強化を目指して、今一度度組織の在り方について 以下により考えてみたいと思います**

**組織再生の戦略 【1年間を第1期から４期に分けて、年間を通して活動する】**

**《 身近なところから、できることから 》**

**１、会員勧誘計画と活動（第1期　1月～3月 第2期4～6月）**

第1期 **勧誘活動の準備を入念に** 　第2期　**勧誘活動に集中**

①支部・分会の入会目標数の設定と共有（会員1人が1人、分会で・支部で○人）

②退職者に手渡す資料の検討（会報・ 退公連のしおり・ 入会案内等）

③退職予定者の把握（職場訪問・ 退職者説明会・ 新聞•生活情報等から）

④勧誘の言葉、文面の作成（日公連の実績・ 退公連の活動。「社会貢献をして、健　康と生きがいを手にする」**「年金はなくならない」**その年金を守るなどわかりやすく簡潔に）

⑤勧誘者と退職者の組み合わせ （誰が 誰を勧誘するか）

⑥勧誘活動の実施

⑦勧誘者相互で情報交換、成果の共有

⑧退公連本部、支部で勧誘活動の中間集計

⑨一次勧誘の検証**（目標値への到達度を踏まえて入念に）**

**入会が叶わなかったケースで**

付け加える資料、説明不足の内容、勧誘員と対象者との関係を重視

⑩二次・三次勧誘の課題と計画の検討、立案

⑪その他

※（文書の注）いわゆるボランティア活動でなく**プロボノ活動**をしよう！

**２、未加入加入者への勧誘（第3期　7月～9月）**

二次・三次勧誘（勧誘者の交代も考える）

**３、入会者への対応 （第2·3期　4月～9月）**

①入会への感謝の手紙に添えて、 当該支部、分会の活動の詳細を届ける。

②入会後、 退公連の初めての事業には新入会員を誘って共に参加する。

③支部・分会の活動に関する連絡は、入会後しばらくの間は文書の他に電話やメ

―ルでも行う。接触の機会を多くすることを心掛ける。

➃コミュニケーションが途切れないように時折電話やメール、新聞・会報配布の折、言葉を交わす。

**４、中途退会の防止 （第2·3期 4月～9月）**

①すすんで退会情報を入手、 人間関係を頼りに素早く対応する。黄色信号の段階で慰留したい。

②退会を簡単に認めず、粘り強く、丁寧に、 時には人を替えて慰留する。

③病気療養者、施設入所会員、一人暮らしの会員との触れあい、コンタクトをとり続ける。 活動に参加できなくても、「数こそ力」会員でいることが組織の対外的な力の強化に繋がることを説明する。

④次世代の退職後の生活を守るために、あなたの力が必要であることを説明する。

⑤退公連の活動をアピールするために、楽しくて、やり甲斐がある魅力的な活動を計画、実施し、継続する。

⑥退公連の諸活動に参加できる会員に対しては、 組織を通して社会参加して、 健康と生きがいを手にし、ネットワークを広げて、納得の人生を全うされるよう話す。

**５、準会員を正会員に**

①退公連・日公連は、今も「公」のために働く同志の集まりであることを強調する。

②日公連は創立以来70余年の間に、退職公務員の生活を守るために恩給・年金制度の基礎づくりとその発展に力を注いできた。特に年金の増額、制度の維持に貢献してきたことを強調する。（退公連新聞令和元年8月号参照）

③現在は、 その制度を後世に評価される形で、伝えるべく努力していること、若い世代の年金に対する不安を払拭するために、制度の現状と**「年金制度は将来にわたって壊れない」**ことの理解を広める努力をしていることを説明する。

④組織を通して社会参加して、健康と生きがいを手にし、ネットワークを広げて、

納得の人生を全うされるよう説得する。

⑤準会員勧誘に当たって、退職後は正会員に移行することを約束することも。

**６、勧誘の言葉、文章に入れたい文言**（参考例）

○組織の中で活動して、 自立して生きる心身の健康を維持できる。

○「次世代の人々のために」と思うと目標が明確になり、 組織として取り組みやすくなるのでは。

○年金制度の次世代への引き継ぎは、 喫緊の課題である。 勧誘者の世代はこの件　に関して、逃げ切れる年齢だからと引き継ぎの責任を放棄できない。

○組織では、新たな人間関係づくりができて、交流関係が広がる。人間関係の狭隘 化は以後の生きる世界を狭める。孤独を味わわざるを得なくなるケースも出る。

○人のため、社会のための活動には、損得のレベルを超えて、承認と充実感という心の報酬がついてくる。

○共同、公共の利益への関心が高まる。 目に映らないところで、誰かが誰かのため に何かを行っている事実に思いを致すようになる。 活動のモチベーションが高まり、 自分の人生を考える材料が豊富になる。

○いろいろな個人的、社会的課題に関心を持つと、当事者意識が生まれ、活動に積 極的に参加できるようになる。

○退公連の活動を通して、従来自分の意識になかった能力、資質の発見ができる。

○市町村職、 教職、 警察職などの経験済みの人生の他に、 経験しなかった人生に 出会うことも可能性なしとは言えない。 出会うかもしれない。

○1人ではできないことでも、４～５人集まればできることがある。もっと集まれば、 多くの人が楽しめて、充実感が持てる事業ができる。

○組織の活動に参加することは、 多くの仲間と活動を共にすることである。 そこ では、相互の理解と共感が新たに生まれ、健康と経験と知識とネットワークという個人の資産が更に積み重なって納得の人生を後押しする。

各退公連には、 既存の勧誘文等マニュアルがあります。それを軸に勧誘の話を構成してください。例示した文言はごく一例に過ぎません。もし参考になる文言があれば、それをご自分の言葉に直してお使いください。

第4期(10月～12月）**勧誘活動の成果の分析、次年度の課題の検討**については、 日公連会員数調査の集計後にお届けします。

会員の方々は現役時代、**「公」**のために仕事をされてきました。 ご承知のように、現在、 日本国民の中では年々**「公」**の意識が失われつつあります。 続く世代のことを考え、 行動することは、文字通り**「公」**の仕事です。 組織と地域社会の将来に目を向けられて、**「自分の仕事の仕上げ」**として、 ご自分で納得できる活動に参加されることを期待します。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　稲田　瑞穂